

東海自然誌 —ふじのくに地球環境史ミュージアム研究報告— 投稿規定

- 1 本研究報告は、ふじのくに地球環境史ミュージアム（以下、ミュージアム）が発行する日本語報文誌で、特定非営利活動法人静岡県自然史博物館ネットワーク（以下、自然博ネット）発行「東海自然誌 —静岡県自然史研究報告—」の後継誌である。静岡県を中心とした東海地域の自然環境、自然史、環境史、さらにはそれらに根ざした文化・芸術等に関する調査研究論文や資料・標本についての報告を発行する。
- 2 著者（共著の場合は、著者の少なくともひとり）は、ふじのくに地球環境史ミュージアム研究員、富士山世界遺産センター整備課研究員、もしくは自然博ネットの会員とする。ただし、編集委員会が特別に認める著者の場合は、それを妨げない。
- 3 論文は、内容や形式により、「原著論文」、「総説」、「短報」、「資料報告」に区分される。
- 4 投稿される原稿は、他の刊行物に発表されていないものに限る。また、その内容や書式は、別に設ける「原稿作成要領」に従い、著者の責任において十分に検討されたものとする。
- 5 投稿された原稿は、専門分野の研究者による査読を受ける。その後、担当編集委員と著者の間で適宜必要な改訂を行い、最終的な原稿受理の判断は編集委員長が担う。
- 6 受理した論文など著作物の著作権は、ミュージアムに帰属する。
- 7 出版にかかる費用は原則としてミュージアムが負担する。ただし、刷り上がりページ数が過剰な場合には著者に超過料金を求めることがある。カラー図表の使用を希望する場合は、別途カラー印刷料金を著者に求める（編集委員会が特別に認めた場合を除く）。
- 8 1論文につき50部の別刷及びPDFが著者に無料配布される（複数著者の場合も同様）。より多くの別刷が必要な場合には、初校返却時までに編集委員長に必要追加部数を連絡すること（追加の別刷印刷費は著者負担）。

投稿 原稿、表、及び図の電子ファイルを合わせて2MB以下にまとめ、電子メールの添付ファイルとしてミュージアム（info@fujimu100.jp）に投稿する。投稿時の図は原図である必要はなく、かりにファイルサイズが上記制限を超える場合には、図の内容が理解できる程度の画質を確保しつつできる限り圧縮する。電子ファイルの作成が困難な場合、もしくはファイルサイズが上記制限を超えてしまい、ファイル分割もできない場合には、CD-R等の電子媒体に記録し、編集委員長に郵送してもよい（東海自然誌編集委員長 〒422-8017 静岡市駿河区大谷 5762 ふじのくに地球環境史ミュージアム）。紙媒体のみでの投稿は、原則として認めない（編集委員会が特別に認めた場合を除く）。

原稿作成要領

原稿は、文書作成ソフト（Microsoft Word 等）を使用して作成する。原稿の構成は、タイトルページ、英文要旨（Abstract）及びその日本語訳文、原稿本文（引用文献含む）、図のキャプションの順とし、それぞれを別個のページに作成する。原稿は、A4 判縦置き、横書き、1 行全角 36 字程度、30 行程度で作成し、行間をあけて上下左右に 3 cm 程度の余白をとる。すべてのページの下部中央に連続したページ番号を入れる。図や表は、原稿とは別個に作成する。

タイトルページ 表題、すべての著者名、所属及び住所（郵便番号必記）を、和文及び英文で上記の順に行を改めて書く。20 文字以内（アルファベットを含む場合は 30 文字以内）の短いランニングタイトル（ハシラ）も指定する。

英文要旨及びその日本語訳文 英文要旨（Abstract）では、論文の全容が解るよう、研究の目的と主な成果を 300 語以内の英文で簡潔にまとめる。英語を第 1 言語としない著者の場合、投稿前に英語のネイティブスピーカーによる文法等の点検を受けることが望ましい。要旨は、日本語訳文も併記する。

原稿本文 使用言語は原則として日本語とし（英文表題や英文要旨を除く）、内容は、ある特定分野の専門家ではない研究者にも理解できるものとなるよう心がける。本原稿作成要領の要件を満たしていない原稿は、査読の前に著者に返却されることがある。

句読点はピリオド（.）とカンマ（,）を用いる。ハイフン（-）、n-ダッシュ（-）、m-ダッシュ（—）を区別して用いる。数値範囲（引用文献のページ範囲含む）は、波ダッシュ（～）やハイフンでなく、n-ダッシュを用いて示す（例えば 546–778）。脚注は用いない。

生物の学名はイタリック体で表記し（植物の下位分類階級略号や、sp., spp.等の参照符を除く）、下線は引かない。どの生物の学名も、最初に記すときにはその著者（命名者）と発表年（植物は著者名のみ）をカンマで区切って併記する（例えば *Homo sapiens* Linnaeus, 1758）。学名の属名は、他の属名と混同する可能性がなければ、後の使用をイニシャルのみに略してもよい（例えば *H. sapiens*）。生物の和名は、カタカナで表記する。

本文中に文献を引用するときは、例えば欧文文献の場合は Nishimura (1975) あるいは (Nishimura, 1975)、和文文献の場合は、西村 (1975) あるいは (西村, 1975) のように記す。著者が 2 人以上の場合は、岩下・西村 (1975) あるいは Iwashita and Nishimura (1975) とし、3 名以上は Nishimura et al. (1975)、西村ほか (1975) のように書く。複数の文献をまとめて引用する場合は、(Nishimura, 1975 ; 西村ほか, 1975) のように書く。

引用文献は、本文中に引用した文献のみを著者の姓のアルファベット順に並べ、原稿

本文の末尾に列記する．本文中で用いた生物学名の出典は，見出しならびにシノニムリスト中のものを除き、引用文献に含めない．雑誌名や図書名は，全ての単語の頭文字を大文字で記す．巻と号はアラビア数字とし，ローマ数字を用いない．著者が何人いても，A ほか，A et al. とはせず，A・B・C・D（和文文献），A, B, C, and D（欧文文献）のようにする．同じ著者の論文が続く場合でも著者名を略さず，また同じ雑誌名が続く場合も *Ibid.* 等で略さない．雑誌名は略記しない．ウェブページの引用については，文献引用にならない，掲載サイトを明記して URL を表記するとともに，ダウンロード日も明記する．引用文献の表記例は以下の通り．

鎮西清隆（1980）掛川層群の軟体動物化石群，その構成と水平分布．国立科学博物館専報，13: 15-20.

Haq, B. U., J. Hardenbol, and P. R. Vail（1987）Chronology of fluctuating sea levels since the Triassic. *Science*, 235: 1156-1166.

星野通平（1976）駿河湾のなぞ，沈黙の海底と生きている化石．静岡新聞社，静岡，253 pp.

久保田正（1995）ミズウオの鳴らす警鐘. Pages 67-74 in 佐尾和子・丹後玲子・根本 稔（編）．プラスチックの海，おびやかされる海の生きものたち，海洋工学研究所出版部，東京．

Shibata, K., S. Nishimura and K. Chinzei（1984）Radiometric dating related Pacific Neogene planktonic datum planes. Pages 85-89 in Ikebe, N. and R. Tsuchi (eds.). Pacific Neogene datum planes, contributions to biostratigraphy and chronology. University of Tokyo Press, Tokyo.

安田 進（2009）2009 年静岡県沖の地震の現地被災調査メモ．公益財団法人日本地震工学会ホームページ．2009 年 8 月駿河湾の地震に関する情報（<http://www.jsce.or.jp/committee/eec2/files/090811suruga4.pdf>）（2016 年 5 月 19 日ダウンロード）

図のキャプション 原稿本文とは別個のページにまとめて列記する．英文で記すことが望ましいが，和文でもよい．

図（写真を含む） 個々を独立した電子ファイルで作成し，ファイル名に各々の図番号（Fig. 1, 図 1）を含め保存する．図は各種画像形式（TIFF, JPG, EPS 等）のファイルとして作成することが望ましいが，投稿時にはそれらをまとめて PDF としたのもでもよい（投稿時の画像ファイルサイズ圧縮に関しては前記参照）．実際の印刷サイズ・画質で作成した原図は，受理後に編集委員長に送付する．原図の推奨解像度は，カラー写真で 350 dpi, 白黒写真で 266dpi, 線画の場合は 1200dpi. 片段印刷の場合の図の印刷

サイズは幅 85mm, 両段印刷の場合は幅 177mm に合わせ, いずれも高さ 253mm を超えないようにする.

表 個々を独立した電子ファイルで作成し, ファイル名に各々の表番号 (例えば Table 1, 表 1) を含め保存する. 表は文書作成ソフト (Microsoft Word 等) もしくは表計算ソフト (Microsoft Excel 等) で作成し, PDF で保存してもよい. 各表の上部には, アラビア数字による個々の表番号と内容を簡潔に説明したタイトルを付ける. 列を区切るための縦線は使わない.